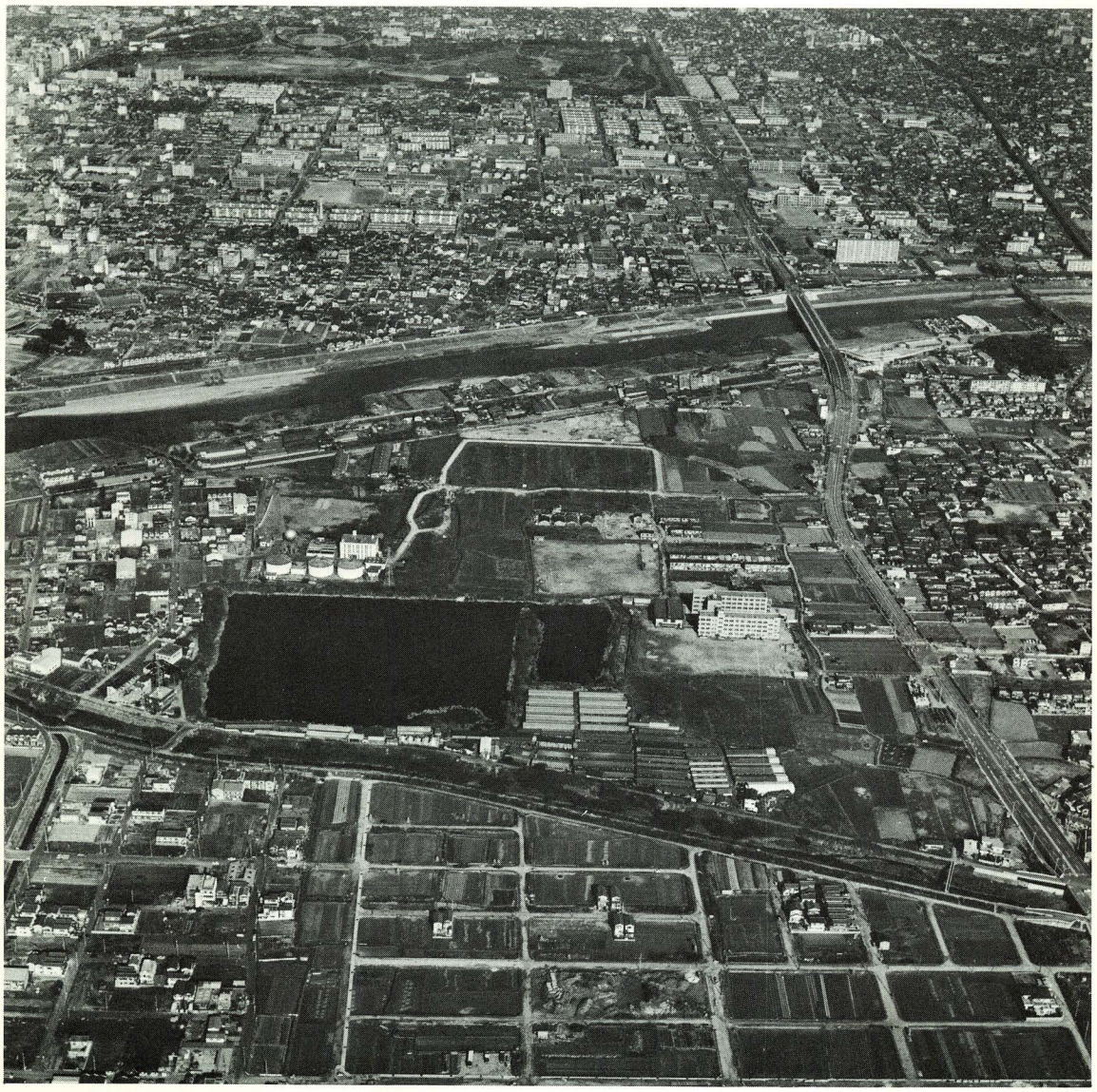
大和川、今池遺跡　発掘調査資料 その1



大和川、今池遺跡航空写真

1978.6

大和川、今池遺跡調査会

この冊子は、発掘調査資料を速報したもので報告書とは異なる事も了承願いたい。

発掘調査にあたっては、大阪府教育委員会、石神　怡、堺市教育委員会、奥田　豊両氏の指導の下に、京都・仏教大学大学院生、学生諸君の御協力を得て堺市教育委員会、森村健一が担当した。

は　じ　め　に

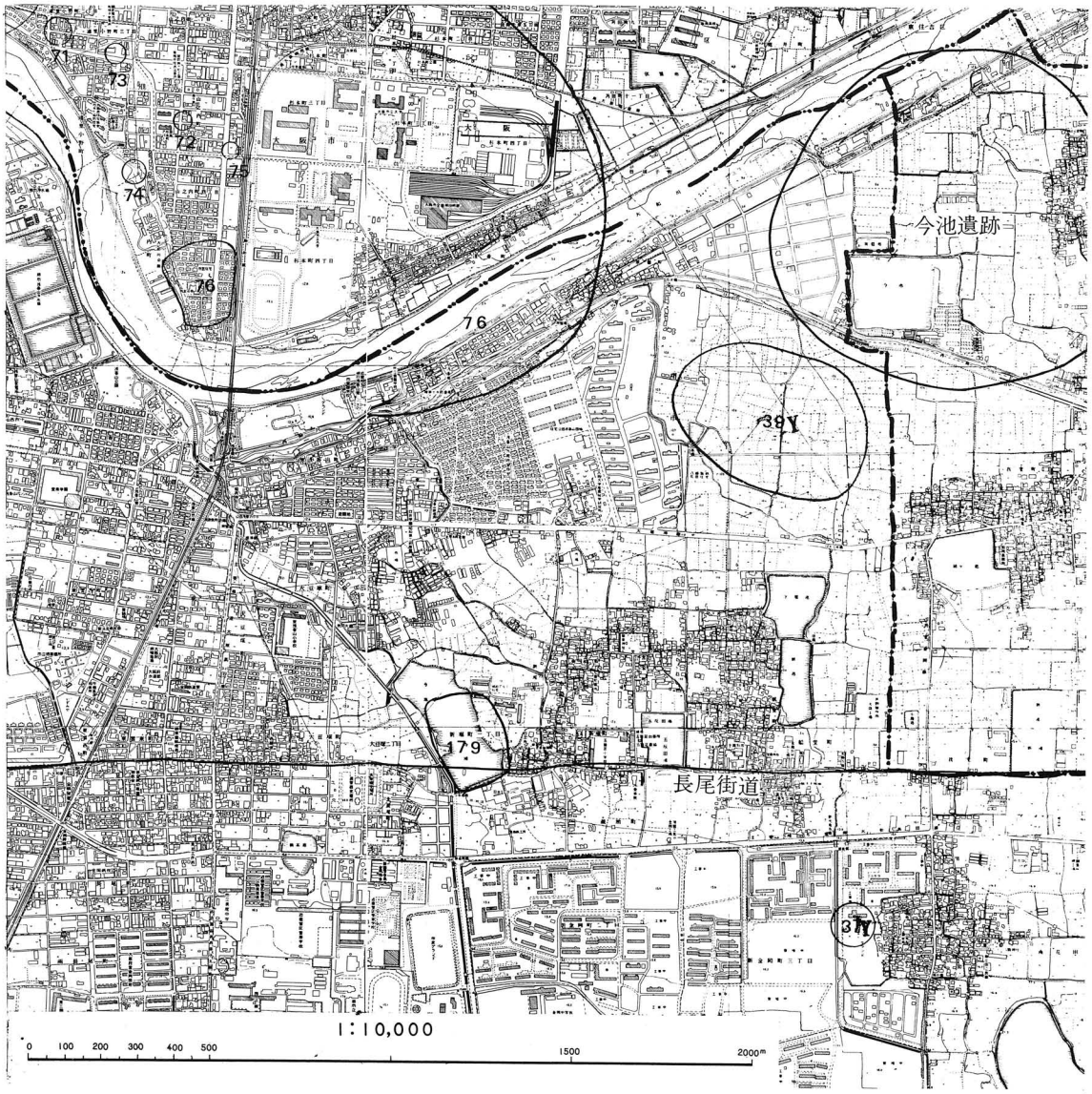
大阪府堺市と松原市にまたがる大和川、南側沿いの水田地帯である。第1地区は、堺市常磐町に所在し、古代に大和、河内、和泉を東西につないだ大津道（長尾街道）がはしり、その道を基準にした条里制遺構も現存している。

この遺跡の西には、弥生、古墳時代の住吉遺跡、南に弥生時代、中期の南花田遺跡にかこまれている。さらに南に、新掘町2丁目の今池遺跡から5世紀後半～6世紀中葉の遺物を多数検出した。

昭和53年4月1日より実施している本調査は、大阪府下水道部の今池処理場計画のあがった昭和52年に埋蔵文化財の試掘調査を実施した結果、新しく発見された古墳時代を中心とする大遺跡である。

この調査は、昭和55年度まで発掘調査計画と下水道計画を併行して実施していく予定です。

発掘調査風景



大和川、今池遺跡位置図

大阪市

71　住吉遺跡第 4 地点

72　住吉遺跡第 3 地点

73　住吉遺跡第 1 地点

74　住吉遺跡第 2 地点

75　住吉遺跡第 5 地点

76　住吉遺跡第 6 地点

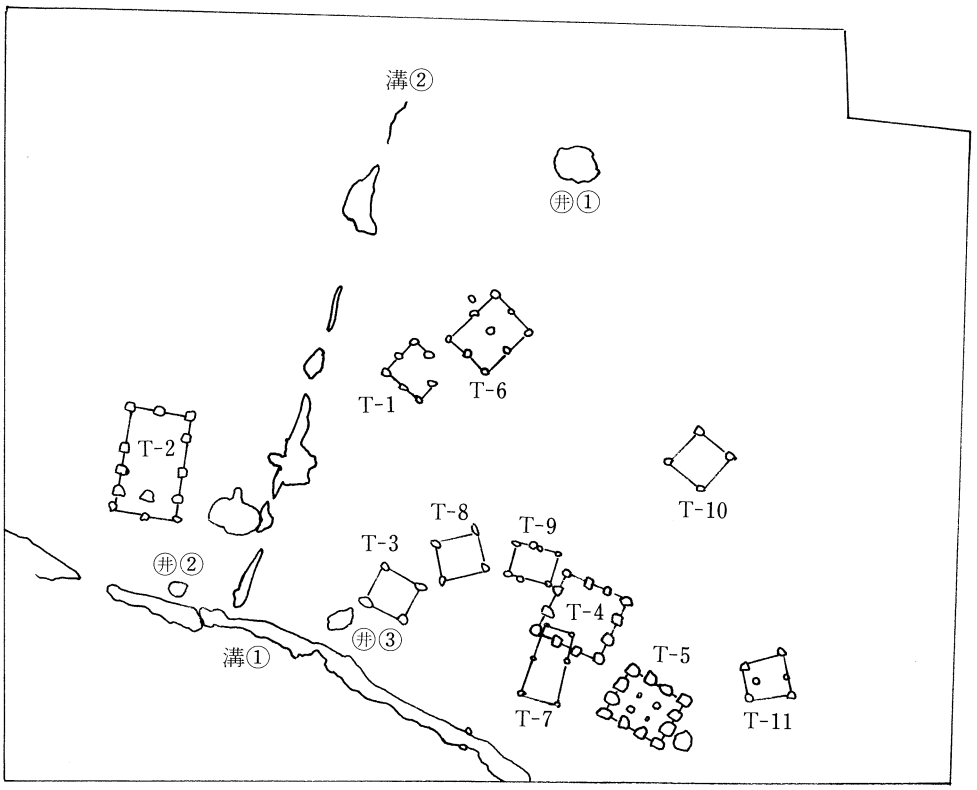
堺市

37　南花田遺跡

39　北花田遺跡

179　今池遺跡

4



大和川、今池遺跡、第１地区　S＝1/500
遺構配置図（T－建物、井－井戸状遺構）

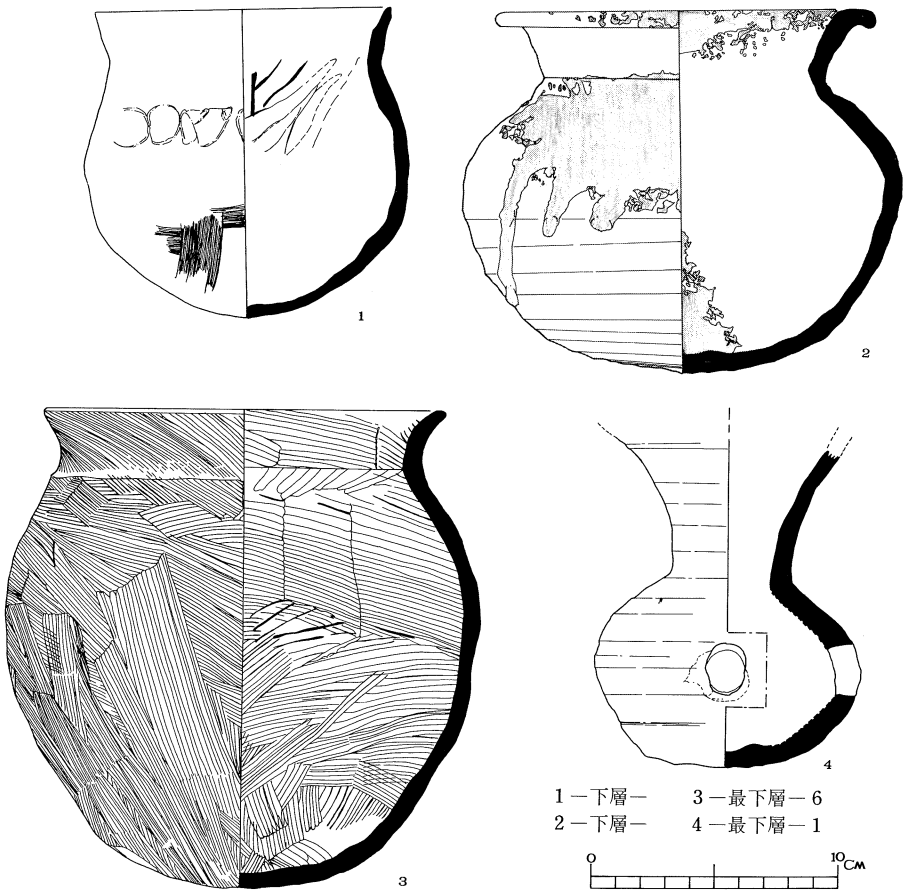
第１地区、遺構

- T－①～２間×２間　住居
- T－②～２間×４間　住居（２間×３間から拡張）
- T－③～１間×１間　住居
- T－④～３間×３間　~~倉庫~~ 住居
- T－⑤～３間×３間　倉庫（束柱）
- T－⑥～２間×２間　倉庫
- T－⑦～１間×２間　住居
- T－⑧～１間×１間　住居
- T－⑨～１間×２間　住居
- T－⑩～１間×１間　住居
- T－⑪～１間×１間　住居

T字形の溝に画された掘立柱群と井戸状遺構が整然と検出されました。

溝は、一般にみられるU字形の断面をもつ溝とは異なりとぎれとぎれに続き随時、水の流れる状態は想像出来ない。

柱穴内に遺物がきわめて少なく掘立柱建物の時期を決定出来ないが、一応、建物の主軸から３時期に、遺物からは、T－１の６C前半期、T－４、５の６C中頃に分けられる。これらの遺構検出から住居と倉庫と井戸の組み合せを考え古墳時代後期の村落形成にアプローチ出来る事を期待している。



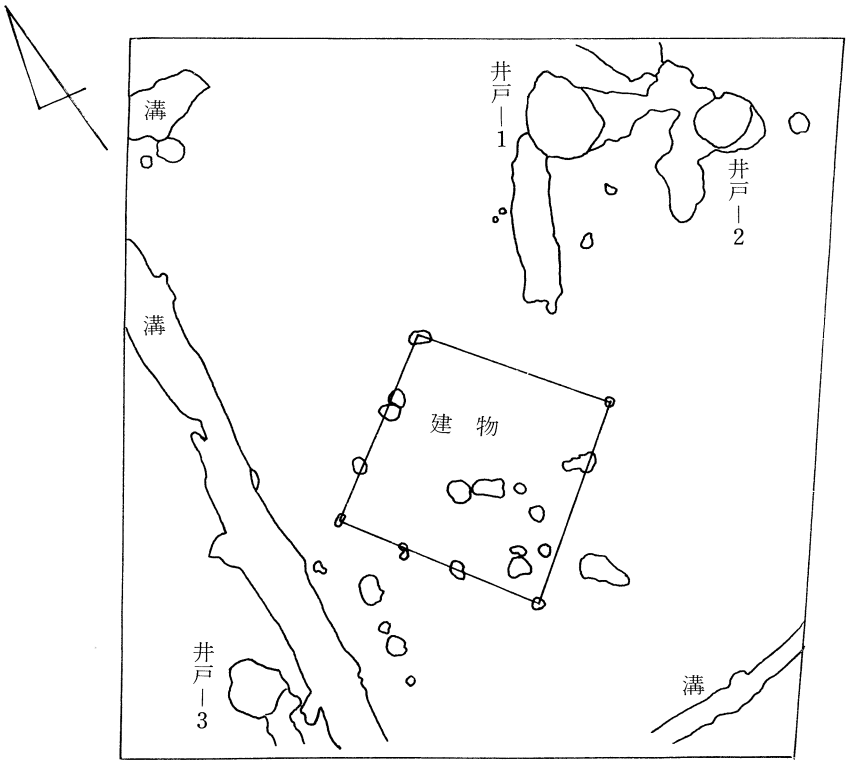
第1地区、井戸状遺構－1、内、出土遺物

第1地区、井戸状遺構(1)内遺物

井戸状遺構内の遺物は、大別して上層、下層、最下層の3群に分けられる。上層は第2層黒色粘質土層(わずかに茶色味を帯びる)の中からのもので、須恵器坏(身・蓋)・壺・長頸壺・甕・甑(はそう)、土師器壺甕等が出土した。しかし、これらの多くは破片である。このほか板状木器、木片、たたき石等の出土を見る。下層は第4層黒褐色粘質土、第6層黒色粘質土層の中からのもので、須恵器坏身・短頸壺(上図2)、土師器小型壺(上図1)・長頸壺・甕胴部、板状木器等が出土した。このうち短頸壺は口縁を真上にした状態であった。最下層は第11層灰青色砂質土と灰青色粘質土の入り混った層(遺構内最下層)の中からのもので、須恵器甑(上図4)、土師器小型壺・壺底部・甕(上図3)、板状木製品、櫛状木製品が出土した。このうち小型壺は甕の中にすっぽりと入っており、両者共口縁を真下に向けた状態であった。

その他の遺物

以上のほかにA3包含層より磨製太形蛤刃石斧、青磁脚部、溝2黒色土より凹基無茎式石鏃、A6・P3上面、D6・P19より砥石、E3溝1付近の包含層より不定形刃器、E5・P8(T4)より須恵器坏蓋、同P20(T5)東側の地山の直上より金銅製鈴がそれぞれ出土している。(川口)



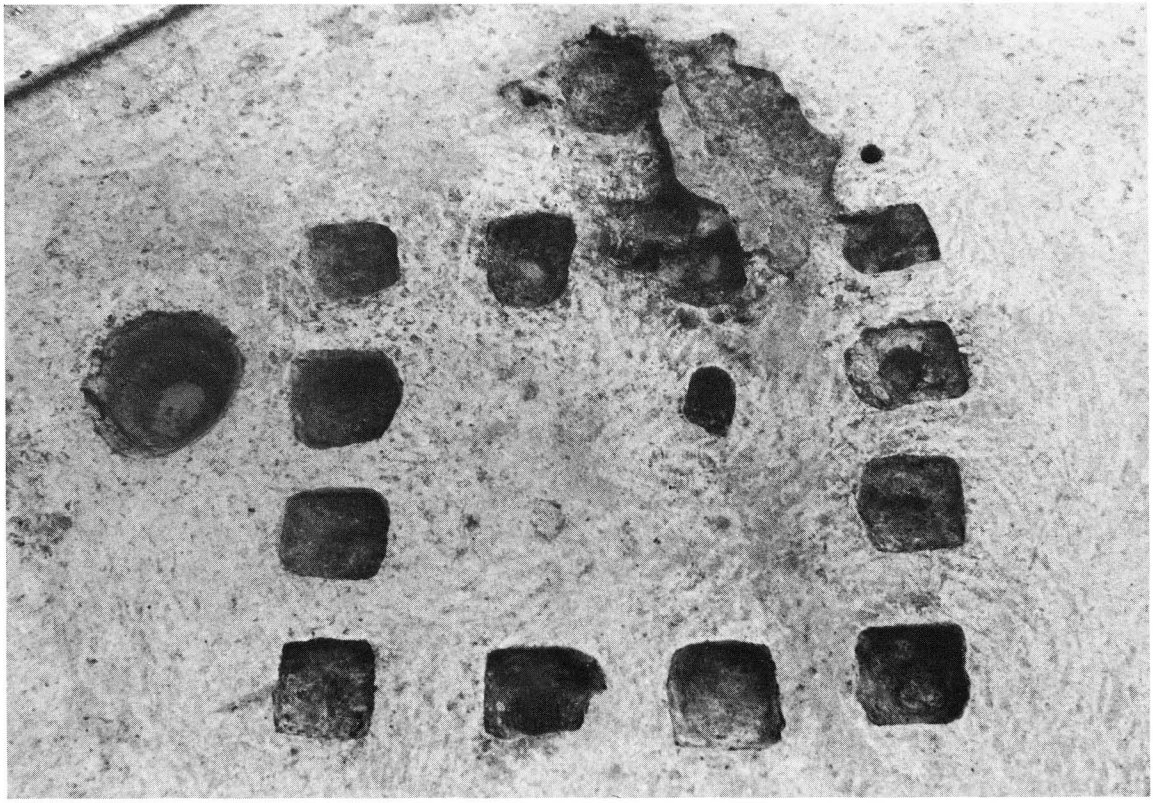
第２地区（関電鉄塔用地）
遺構配置図　Ｓ＝1/200

■大和川今池遺跡第２地区

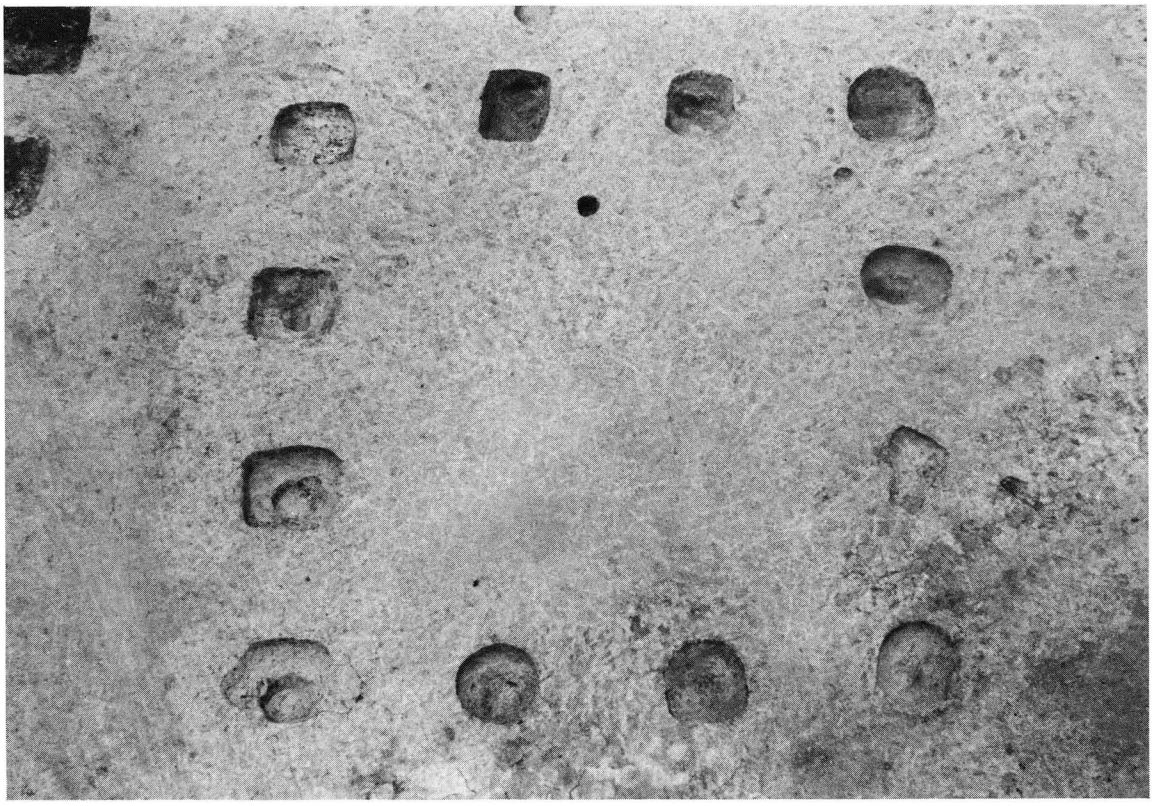
第２地区は、第１地区の南約 120ｍの所に位置し、大阪府松原市天美西７丁目223番地に所在する。

- 建物—１、第２地区のほぼ中央に位置し、３間×３間（約6.1ｍ×6.1ｍ）の東西に軸をもったやや歪んだ正方形の掘立柱の建物で、柱穴は不定形である。
- 井戸状遺構①は、凸形に掘り込み、径約2.1ｍ、深さ1.8ｍを計る。底部の肩で土師器（壺、高坏脚部）３個体を出土した。同②は、径1.5ｍ、深さ0.35ｍを計る平底で、遺物は全く見られない。
- ピット—23は、深さ 0.1ｍほどの落ち込みで、小型丸底の壺をはじめ多くの土師器を出土している。
- 溝①は幅0.5～0.6ｍ、溝②は幅1.3ｍ～1.4ｍ、溝③は幅約 1.2ｍを計り、深さはいずれも0.1～0.2ｍほどの浅いものである。溝①②③はコの字形に交差していると考えられる。溝④は井戸①から建物の方へのびるもので、幅約1.0ｍ、深さ約0.1ｍを計る。

この遺跡では、４世紀の後半～終末に建物と井戸をもった生活が始まり、溝をめぐらして６世紀中頃まで営みが続けられたと考えられる。（古園）



第1地区、建物－5



第1地区、建物－4

第１地区、井戸－１　遺物出土状態下層

第１地区、井戸－１　遺物出土状態最下層

井戸状遺構(1)

第2地区、井戸状遺構内(1)　遺物出土状態